

2017年8月3日

## BMW グループは引き続き成長への道を歩む

- 第2四半期は収益も利益も成長
- 目標とする税引前利益率(EBT マージン)は8~10パーセント
- 2017年の電気駆動モデル販売目標 10万台超に向け順調に増加
- 自律走行の実現に向け協力パートナーを追加
- クルーガー:全速力でe モビリティを推進

### ミュンヘン発:

BMWグループは2017年上半期の好調な業績を受け、将来のモビリティ、自動車部門の変革を究極の目標に据え、**NUMBER ONE> NEXT** 戦略の実施に全力を傾ける。プレミアム・モビリティを提供する世界有数の企業として、BMWグループは常に顧客の求めるものや要望に焦点を当て、4つの**ACES**トピック(**A**utonomous:自律的、**C**onected:接続性、**E**lectrified:電動化、**S**ervices:奉仕 / **S**hared:共有)に関する革新的な作業を継続する。

当グループは、電気自動車と自動運転の拡大に主眼を置いている。**BMW iNEXT**は、これら両方の分野において新たな基準を確立し、技術的な先導者となるだろう。このモデルは2021年以降、ドイツにおける将来技術にとって重要な場所であり、また電気自動車におけるコンピテンス・センター(能力を集約する場所)であるディンゴルフィン工場で製造される。さらにドイツは、自律走行の発展のための重要な場所としても貢献することになる。Intel社およびMobileye社との協力の一環として、3社からの最初のエンジニアが今年中にミュンヘン近郊のウンターシュライスハイム(Unterschleißheim)にできた新しい開発センターに移り、協力開始から1年後には、Delphi社とContinental社を含む多くの有名パートナー企業がこのプロジェクトに参加する。

「モビリティの世界ではすでに先行して大きな変化が起こっており、この取り組みに当社は不可欠な存在になっています。NUMBER ONE> NEXT戦略は当社の革新的な側面を鮮明にし、コア・ビジネスを強化します。」BMW AG取締役会会長のハラルド・クルーガーはこうコメントし、「当社は現在、そして将来的にも、電気自動車の分野で急速に進歩していきます。現時点では競合として確立された存在がないため、当社ほど多くの電気駆動モデルを導入できた企業はありません。当社の柔軟なアーキテクチャーにより、将来的には内燃式エンジン、プラグイン・ハイブリッド、電気自動車の中からどのモデルをどのくらいの量で生産すべきかを素早く決定することができます。当社のラインナップにおけるこの柔軟性は、不安定で不確実な時代における成功の鍵となることでしょう。」と結んだ。

BMWグループの中核を成すコア・ビジネスは長期的な収益性を生み出すことに成功しており、今後のモビリティの形を決めるための根本的な強みをもたらす。BMWグループは2017

年の第2四半期に、販売台数、収益および利益のすべてにおいて成長を記録した。この記録達成には、ニュー**BMW 5シリーズ**の導入が貢献した。このシリーズ・モデルは、2017年初頭にBMWグループの歴史上で最大のモデル攻勢の口火を切った。今後、当グループに属す3つのプレミアム・ブランドであるBMW、MINI、Rolls-Royceにおいて、40種に及ぶ新型車およびモデル・アップデートの発表が行われる予定だ。

「当社の顧客は新しい5シリーズ・モデルに注目しており、市場導入以降、第2四半期を通して好成績を記録しています。私たちは、3つのプレミアム・ブランドを持つBMWグループが、2017年に販売台数の記録を更新し、プレミアム・モビリティにおける先導的立場を維持すると確信しています。」**クルーガー**はこのように語り、「当社の製品が成功を維持すると共に、米国においても、当社の戦略である収益の改善・成長に重点を置いて取り組み、配当を得られるようにするつもりです。」とコメントした。

モデル攻勢においては、アッパー・プレミアム・セグメントの拡大も実施する。ニューBMW 8シリーズといった感動的な魅力を放つモデルをターゲットに追加することで、BMWグループは2020年までに同セグメントで大幅な増産を達成することを目指している。このセグメントには、BMW 7シリーズの他、将来導入予定のBMW X7も含まれており、BMWグループは長期的なビジネスの成功を確実にするため、収益性の目標を高く掲げてゆく。

「当社のNUMBER> NEXT戦略において、持続的な収益性の確保は不可欠な要素であり、とりまおさず将来のモビリティを形作るという課題に取り組むために必要な原資を確保しているのです。」BMW AGの財務担当取締役である**ニコラス・ペーター**はこのように述べている。「当社が顧客のニーズと将来の関連技術に焦点を当てているのは、こうした理由からです。当社の企業価値を出発点として、未来志向の協調的な作業方法を実現し、資源配分の優先順位を明確にします。当社は意図的に製品やプロセスの複雑さを省いており、BMWグループ全体の長期的な戦略と持続的な成功を見失わないようにするため、常に先を見て、統率力を示し、自身の強みを自覚して行動します。不変性があり、信頼性があるこの組み合わせこそがBMWグループの特徴であり、今後もそうでありたいと考えています。」

幅広いラインナップを揃えたBMWグループの電気駆動モデルは、今年の前半は特に人気が高かった。BMW i3およびi8、BMW iPerformanceプラグイン・ハイブリッド・モデル、MINI Crossover プラグイン・ハイブリッド・モデルの合計販売台数は42,573台で、前年同期比で約80%増(2016年は23,681台)を記録した。これについて**クルーガー**は、「今年初めて、年間10万台以上の電気駆動モデルを販売することが、すでに確実視されています。」と語った。

4年前にBMW i3を市場に導入して以来、BMWグループは電気自動車の世界のパイオニアであり、順調にとるべき進路を維持している。MINIブランド初のプラグイン・ハイブリッド・モデルを含め、BMWグループは現在9種類の電気駆動モデルを提供しており、2018年には

ニューBMW i8ロードスターがその列に加わる予定である。BMWグループのコア・ブランドにおいて、近いうちにオール・エレクトリックでバッテリー駆動式の電気自動車は不可欠な部分を占めるようになる。2019年末にはオックスフォード工場でのバッテリー駆動式のMINI電気自動車の生産が始まり、2020年には同じくバッテリー駆動式のBMW X3電気自動車が登場する。

## BMWグループは販売台数、収益、利益の全てで成長

2017年の第2四半期におけるBMW、MINI、ロールス・ロイスの各ブランドの合計販売台数は633,582台(2016年は605,534台)で、前年同期比で4.6%増加した。4月から6月までのグループ収益は前年同期比3.1%増の257億9,900万ユーロ(2016年は250億1,400万ユーロ)となった。支払金利前税引前利益(EBIT)は29億2,900万ユーロで、対前年比7.5%増(27億2,500万ユーロ)となった。税引前利益(EBT)は30億5,500万ユーロ(2016年は27億9,800万ユーロ、9.2%増)となり、グループのEBTマージンは11.8%(2016年は11.2%)となった。純利益は13.6%増の22億1,400万ユーロ(2016: 19億4,900万ユーロ)であった。

上半期の販売台数は前年比5.0%増の1,220,819台(2016年は1,163,139台)となった。グループ収益は7.4%増の492億4,700万ユーロ(2016年は458億6,700万ユーロ)となった。支払金利前税引前利益(EBIT)は7.6%増の55億7,500万ユーロ(2016年は51億8,200万ユーロ)であった。税引前利益(EBT)は60億6,000万ユーロ(2016年: 51億6,600万ユーロ)で、第1四半期の好調さを受けて前年比17.3%増を記録した。年初来の6か月間のEBTマージンは12.3%(2016年: 11.3%)であった。グループ純利益は21.5%増加して43億6,300万ユーロ(2016年: 35億9,000万ユーロ)となった。

## 自動車部門: EBITマージンは目標範囲内

第2四半期の自動車部門の収益は229億7,600万ユーロで、前年同期(228億7,200万ユーロ、0.5%増)と同様に高い水準であった。EBITは2.8%増加して22億3,800万ユーロ(2016年: 21億7,800万ユーロ)となり、自動車部門のEBITマージンは9.7%(2016年: 9.5%)へと改善した。税引前利益は4.7%増の23億8,500万ユーロ(2016年: 22億7,700万ユーロ)となった。

年初来の6か月間の自動車部門の収益は4.8%増の436億6,800万ユーロ(2016年: 416億8,600万ユーロ)となった。EBITは4.3%増の41億900万ユーロ(2016年: 39億4,100万ユーロ)で、自動車部門のEBITマージンは9.4%(2016: 9.5%)であった。税引前利益は16.3%増の46億6,400万ユーロ(2016年: 40億1,100万ユーロ)となった。

BMWブランド車の世界販売台数は1,038,030台(2016年: 986,557台、5.2%増)で、初め

て上半期だけで100万台を超えた。BMWグループのフラッグシップである**BMW 7シリーズ**や**BMW Xファミリー・モデル**など、多くのモデルがこの好成績に貢献した。BMW 7シリーズは上半期だけで32,000台以上が販売された(対前年比26.9%増)。上半期の**BMW X1**の販売台数は約137,000台で、前年同期比で45.2%増であった。**BMW X5**(約90,000台、10.6%増)も大幅な成長を記録した。**BMW 5シリーズ**はモデル・チェンジの影響を直接受ける時期であったが前年度と同じ高水準を維持し、6か月間の販売台数は166,000台(1.8%減)を超えた。5シリーズのニーズは上昇傾向にあり、今年の子の残りの期間にさらなる勢いを増すと予想される。

2017年1月から6月までの**MINI**ブランドの販売台数は181,214台(2016年: 174,898台、3.6%増)で、上半期の新記録を更新した。**MINI Clubman**の6か月間の合計販売台数は29,867台(2016年: 27,511台、8.6%増)であったが、とりわけニュー**MINIコンバーチブル**は30.3%増の18,699台(2016年: 14,354台)と顕著な成長を記録した。

英国、グッドウッドを本拠地とする**ロールス・ロイス・ブランド**は、2017年の上半期に1,575台(前年比6.5%減)を販売した。昨年の上半期は極めて人気の高い**ロールス・ロイス・ドーン**の発売による影響を受け、高い販売台数を記録していた。前年比での販売台数の減少は、ドーンの販売が落ち着いたことに加え、モデル交代に先行して**ファントム**の販売を終了したことが主な理由である。多くの地域でラグジュアリー・セグメントについて継続的かつ明らかな不確実性が存在するが、ロールス・ロイスは長期的かつ持続可能な成長を目標に掲げている。

世界全体でバランスのとれた販売を実現するという戦略に沿って、BMWグループは柔軟性の高い生産、販売、マーケティングの仕組みを利用して、各地域間の需要の変動を均一化している。

**欧州地域**では、多くの主要な市場において逆風が影響しているにもかかわらず、上半期にBMWグループは前年比2.2%増の555,206台(2016年: 543,270台)を販売した。

**アジア地域**の需要は6か月間で大幅に増加し、中国でのグループの好調な業績のおかげで販売台数は415,888台(2016年: 361,568台、15.0%増)となった。同市場におけるBMWグループの販売台数は、主に通年で入手可能となった**BMW X1**と、中国市場専用に特別に設計されたニュー**BMW 1シリーズ・セダン**の人気により、前年比18.5%増の293,572台(2016年: 247,817台)を記録した。

**南北アメリカ大陸地域**の販売実績は、米国における自動車市場の縮小により引き続き軟調で、6か月間の販売台数は2.5%減の217,530台(2016年: 223,098台)となった。対照的にメキシコおよびラテン・アメリカでの1月から6月期の販売台数は2桁台の伸びを見せた。

**モーターサイクル部門は販売台数の新記録を更新**

**モーターサイクル部門の第2四半期**は、極めて好調に推移した。4月から6月までの販売台数は、前年同期比12.3%増の52,753台(2016年:46,966台)となり、過去最高を記録した。収益は12.8%増加して6億9,600万ユーロ(2016年:6億1,700万ユーロ)となった。**支払金利前税引前利益(EBIT)**は6.1%増の1億400万ユーロ(2016年:9,800万ユーロ)となり、**EBITマージン**は14.9%(2016年:15.9%)であった。**税引前利益**は6.2%増加して1億300万ユーロ(2016年:9,700万ユーロ)となった。

年初来の6か月間では、合計88,389台のBMWモーターサイクルおよびマキシスクーターが販売された(2016年:80,754台、9.5%増)。収益は10.0%増加して13億1,900万ユーロ(2016年:11億9,900万ユーロ)となった。**支払金利前税引前利益**は19.3%増加して2億2,900万ユーロ(2016年:1億9,200万ユーロ)となり、この6か月間の**EBITマージン**は17.4%となった(2016年:16.0%)。**税引前利益**は19.4%増の2億2,800万ユーロ(2016年:1億9,100万ユーロ)となった。

#### **ファイナンシャル・サービス部門は好調を維持**

ファイナンシャル・サービス部門も、**第2四半期**に好調な業績を維持。4月から6月までに**新規信用融資およびリース契約**を合計468,603件(2016年:460,718件:1.7%増)獲得した。2017年6月30日現在で、ディーラーとの契約を含めて合計5,307,296件(2016年12月31日時点:5,114,906件、3.8%増)のリース契約および信用融資契約が実施されている。第2四半期の**部門収益**は、8.3%増加して70億4,400万ユーロ(2016年:65億500万ユーロ)となった。**税引前利益**は17.1%増加して5億8,900万ユーロ(2016年:5億300万ユーロ)となった。

2017年の上半期には、融資およびリース事業で合計934,237件(2016年:874,090件)の**新規契約**が締結され、前年比で6.9%増加した。年初来の6か月間の**部門収益**は、12.4%増加して140億9,000万ユーロ(2016年:125億3,700万ユーロ)となった。**税引前利益**は、10.3%増加して11億8,400万ユーロ(2016年:10億7,300万ユーロ)であった。

#### **従業員数は増加**

6月30日現在のグループの**従業員数**は127,680名(2016年:123,597名)で3.3%増加した。引き続きデジタル化や自動運転など、未来志向の分野における熟練労働者とITスペシャリストを募集している。

#### **2017年の展望:BMWグループは新記録の更新を予想**

BMWグループは、強いブランド力、魅力的な製品ポートフォリオ、国際的な自動車市場が緩

やかな上昇傾向を継続するという期待感を背景に、今年度の目標は達成できると確信している。これらの有利な要因は、新技術のための高水準な先行投資、競争の激化、人件費の高騰によって相殺されており、世界的な政治・経済環境は依然として不安定な状態にあると予想される。

クルーガーは以下のようにコメントした。「2017年の自動車部門の販売台数および税引前利益はわずかながら増加しており、改めて記録を更新しました。今までの6か月間を見る限り、今年度の目標は達成できると確信しています。したがって、我々は慎重ながらも楽観的な心境で下半期に取り掛かっています。そのため、BMWグループの歴史上で最大のモデル攻勢を展開しつつ、その一方で重要な技術的および戦略的プロジェクトに関連して、年々高額な支出が続くことも予想しています。忘れてならない他の要因として、政治的に厳しさを増す環境と、電気自動車と自律走行のための高い初期費用というのもあります。」

2017年の自動車部門の**EBITマージン**は8%~10%の目標範囲内に留まると予測している。複数のプレミアム・ブランドを有するBMWグループは、2017年も世界をリードするプレミアム・モビリティ・メーカーとしての地位を維持するであろう。これら好調な業績を受けてBMWグループ・コーポレート・コミュニケーションズは、一年を通じて**自動車部門の収益**は確実に増加すると予測している。

本文書における今年度の予測については、世界的な政治・経済情勢が大きく変わらないという前提に基づいている。

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、  
BMW カスタマー・インタラクション・センター：  
フリーダイヤル 0120-269-437 をご掲載ください。  
受付時間：平日 9:00-19:00 / 土日祝 9:00-18:00  
BMW インターネット・ウェブサイト：<http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは：  
BMW Japan Corp. 広報室：03-6259-8025（企業広報）